

中国語教育学会会報

第 19 号 (通巻 44 号) 2007 年 1 月 11 日発行

〒562-8558

大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1

大阪外国語大学中国語学研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email ch_teaching@yahoo.co.jp

郵便振替口座 00110-1-191152

目 次

- (1) 学会創立 5 周年記念・第 5 回全国大会の開催と発表者募集について
- (2) 2006 年度理事会報告
- (3) 韓国中国語教育学会、世界華語文教育学会 (台湾) との交流について
- (4) 《日本中国語教育学会會員 來台華語文研習》の再募集予定について
- (5) 例会・講演会・サンプルテストのお知らせ
- (6) 事務局からのお願い

(1) 学会創立 5 周年記念・第 5 回全国大会の開催と発表者募集について

今年 2007 年は、本学会の前身である全国中国語教育協議会が設立されてから 10 年、中国語教育学会へ移行してからちょうど 5 年に当たります。また、高等学校中国語教育研究会が創立されて 25 周年の節目でもあります。これを記念して、中国語教育学会と高等学校中国語教育研究会の合同開催により下記のような全国大会を企画しています。詳細は改めてご案内いたしますが、会員多数の大会発表およびご参加をお待ちしています。

中国語教育学会・高等学校中国語教育研究会 合同全国大会 (案)

(中国語教育学会第 5 回記念大会、高等学校中国語教育研究会設立 25 周年記念大会)

期日：2007 年 5 月 12 日 (土)、13 日 (日)

会場：関西大学・千里山キャンパス (大阪府吹田市)

主催：中国語教育学会、高等学校中国語教育研究会

後援 (依頼中を含む)：文部科学省、国際文化フォーラム、国際交流基金、駐日中国大使館教育処、駐大阪総領事館教育室、韓国中国語教育学会、世界華語文教育学会

協力：立命館孔子学院、桜美林大学孔子学院、北陸大学孔子学院、愛知大学孔子学院、立命館アジア太平洋大学孔子学院、札幌大学孔子学院

助成 (申請中)：中国国家汉语国际推广领导小组办公室

備考：2007 年 5 月 10～11 日は京都市内において、立命館孔子学院主催世界孔子学院長フォーラム開催予定。

プログラム：

5 月 12 日 (関大 100 周年記念館)

11：30～12：00 中国語教育学会総会

12：30 受付開始

13：00 開会式

13：30～17：00 特別講演会／国際シンポジウム

発表1 到達度評価 (CEFR と NS*) -大阪外大の試み-
講師：真嶋潤子 (大阪外国語大学・日本語教育)

* CEFR : Common European Framework of Reference for Language (EU)
NS : National Standards in Foreign Language Project (U.S.A.)

発表2 米国の中国語教育における高大連携
-カリキュラムアーティキュレーションと AP 制度
講師：Yu-Lan Lin (Boston public school)

以上 (1, 2) 司会：山崎直樹 (大阪外国語大学・予定)

発表3 大陸の対外漢語教育 -《長城漢語》とその学習大綱-
講師：馬箭飛 (申請中) (国家漢語国際推广領導小組弁公室副主任・
世界漢語教育学会秘書長)

発表4 台湾の対外華語文教育 (世界華語文教育学会に依頼中)

発表5 韓国における中国語教育
講師：孟柱億 (韓国外国語大学校・韓国中国語教育学会会長)

以上 (3, 4, 5) 司会：古川 裕 (大阪外国語大学)

発表6 初級段階の文法・語彙ガイドライン
講師：輿水優 (本学会顧問・学力基準プロジェクト委員会代表)

発表7 わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム
講師：藤井達也 (埼玉県立伊奈学園総合高等学校・本学会理事・
高等学校中国語教育研究会代表理事)

以上 (6, 7) 司会：山田眞一 (富山大学・学力基準プロジェクト委員会)

17:15~17:45 高等学校中国語教育研究会総会

18:00~20:00 懇親会 (会場：関西大学百周年記念会館レストラン)

5月13日 (日) (第1学舎・文学部)

9:00 受付 (二日目からの参加者のみ)

9:30~12:30 中国語教育学会分科会

「教育法」部会、「文法・語彙教育」部会、「音声教育」部会、「文化」部会など (予定)
午後は散会の予定

★発表者募集要項★

上記大会において研究発表を希望される会員は「題目」「発表要旨 (日本語または中国語で一千字以内)」「連絡先 (住所、電話番号と電子メールアドレス)」を全て明記したものを 2007年2月28日 (水) 必着 で下記宛てに郵送してください。

採否については3月10日までにお知らせし、ホームページにも掲示します。

大会発表申し込み宛先 2007年2月28日 (水) 必着

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学 外国語教育研究機構内

「中国語教育学会第5回全国大会」準備会幹事 西川和男

(2) 2006年度理事会報告

日 時：2006年12月10日(日) 13:00~16:00

会 場：国際文化フォーラム会議室

出席者：古川裕(会長)；荒川清秀、西川和男、藤井達也、山田眞一(以上、代表理事)；岩本真理、遠藤雅裕、大川完三郎、胡興智、佐藤富士雄、高橋弥守彦、武信彰、陳淑梅、丸尾誠、守屋宏則、楊光俊、吉田隆司(以上、理事)；郭修静、森宏子(以上、幹事)。

欠席者：平井和之、三宅登之、遠藤光暁、王占華、郭春貴、加藤晴子、日下恒夫、胡士雲、依藤醇。(以上、50音順、敬称略)

【報告事項】

1. 会員動向について

総会員数 384名(2006年12月9日現在)

※昨年度大会(2006年3月25日)以降の新入会員35名

会費納入者 248名(納入率64.6%)

2. 活動状況について

会長から研究例会の開催状況、開催予定について資料に基づき報告があった。特に、今年度の関西地区研究会では他の研究組織などとの連携を重視していることが表明された。

3. 会報・会誌について

会長から会報の発行について資料に基づき報告があった。会誌については、締切日12月11日(月)までに合計11本の投稿があり、理事会構成員による査読をお願いした。

会誌の「中国語教育に携わる人に贈る本」欄は「私の授業(仮題)」とする案が承認され、遠藤(雅)理事、高橋理事、岩本理事、藤井理事、陳理事、楊理事、胡(興)理事、依藤理事に原稿を依頼した。なお今後は、会誌で「私の理想の教科書」のような特集テーマに沿って会誌を編集すること、さらに、教案なども掲載してはどうかという提案があった。

4. 国内外との学会との交流について

会長から国内外との学会との交流について資料に基づき、韓国、台湾との交流報告があった。会長就任挨拶で表明したビジョン「会の内外に開かれた風通しの良い組織であること」を実現するために、国内外の学会、研究組織、団体との交流を積極的に進めたいという姿勢が示された。

【審議事項】

(1) 予算案について

森幹事から本年度会計報告、補正予算と来年度予算案について資料に基づき説明があり、提案通り承認された。本学会にとっては唯一の収入源が会費であることから「会員の拡大、掘り起こしが大きな課題である」(古川会長) ことに関して、「申込書類付きのパンフレットなどがあれば勧誘しやすい」(守屋理事)との提案があり、パンフの作成を試みる(守屋理事、山田理事担当)ことになった。また、会計報告書について、会費収入は会員総数に対応すべきであり、郵便振替手数料支出を収入とは明確に区別すべきとの指摘があった。

(2) 次回大会について

古川会長から次回第5回記念大会について資料に基づき説明があった。審議の結果、原案通り承認された。開催校を代表して、関西大学の西川理事から挨拶があった。

(遠藤理事) 各分科会に加えて模擬授業なども行ったらどうか。また、執筆者自身による教科書の使い方のプレゼンやポスター発表などもあればよい。

(藤井理事) 模擬授業は学生の動員など実施行うには難しい点が多くあり、授業を撮影したビデオを見せ解説する方がやりやすい。

(高橋理事) 高中研からの発表者や部門別の発表者のバランスも考えることが必要と思われる。

(荒川理事) 分科会を午前中で終わると決めることはないのではないか。

(古川会長) 発表者の応募状況を見て柔軟に対応する。

(3) 名誉会員候補の調査と推薦方法について

内規によれば、「名誉会員は年齢満 70 歳以上で、継続して 5 年以上本会会員であったものとする」となっているが、70 歳であることをいかに調査するかが問題となっている。審議の結果、現段階では学会事務局データから会員の年齢を調べるのが困難なため、当面は会員からの推薦を受ける方式で行うこととなった。なお、次回総会において、興水優会員(現、顧問)と榎本英雄会員の二名を名誉会員に推すことが承認された。

その他、「今後は名誉会員の年齢も下げる必要はないか?」(高橋理事)という意見に対し、会費収入が減少することを懸念するとの意見が出た。

(4) 会長選挙について

会長から、2007 年 12 月頃に郵送による方式で次期会長選挙を行うことについての説明があり、承認された。投票資格として、「会費を会則通りに収めていることを条件とすること」(佐藤理事)が提案された。

(5) 学会名について

平井理事から電子メールで提出された上記議題について審議した。

(守屋理事) 中国語で“中国語教育学会”といった場合の“中国語”には、中国語としていささか違和感がある。

(西川理事) “汉语”としてしまうと、大陸以外のシンガポールや台湾などの国々に通用しにくいのではないかと。世界とのつきあいを考えれば、“日本中国語教育学会”にする方がよい。

(古川会長) 対外中国語教育の世界では、日本や韓国で“中国語”と言及することに違和感が少ない。よって、固有名を尊重する方針により、中国語では“中国語教育学会”としておいても良いのではないかと。

審議の結果、中国語による学会名は“中国語教育学会”でも大きな問題はないとされたが、「できるだけ早いうちに学術団体として登録すべき」(西川理事)との意見があり、英語名についても当面 HP に表示されている **The Japan Association of Chinese Language Education** のままとするが、「“Teacher’s Association (教師協会)”である会の性格を打ち出したい」(古川会長)との意見があり、いずれ議論を尽くすこととなった。

(6) 会誌の執筆要項について

平井理事から提出された上記議題について審議した。提出原稿の体裁に関することが議論の中心となった。「自己責任で印刷用の完全原稿を提出させる」(守屋理事)ことについては、「自己責任にするとフォントの不揃いなどの問題が出る惧れがある」(古川会長)と

の指摘があった。「ワープロソフトは Word が主流ではあるが、一太郎を使用する者もいる」(佐藤理事) ことについては、「pdf ファイルで提出するのはどうか」(守屋理事) という案も出された。

審議の結果、いつまでも平井理事ひとりの手を煩わせることはできないので、早急に、どんな体裁の原稿も扱うことができ、かつ予算に見合う業者を探すため、守屋理事、楊理事からそれぞれ紹介された印刷業者に打診することとなった。

(7) スピーチコンテストの案内について

平井理事から提出された上記議題について審議を行い、提案通り承認された。ついでには、今後、本学会のホームページにおいて、全国で開催されるスピーチコンテストなどの催しについて広く掲示したいので、会員からの情報提供をお願いしたい。

(8) その他

会誌に関して

(丸尾理事) 中国語教育学会会誌から、文法論文を排除するのか？

(荒川理事) 『日本語教育』も初期の頃は文法関係の論文が多かったが、だんだん教育方面にシフトしていった。中国語教育もいずれはそうなるであろうから、今すぐに変える必要はないのではないか。

会費に関して

(陳理事) 会費 5000 円は非常勤講師にとって負担である。常勤講師と差をつけてもよいのではないか。非関東地区で開催される大会にも参加のための交通費が負担となることが予想される。

(遠藤理事) 日本中国語学会のようにネット会員は少し安くするという方法もある。

(古川会長) 確かに現会費 5000 円は高いかもしれない。院生にとっても負担であるから、せめて学生会員を優遇しても良いだろう。これは今後、会員拡大を考える際にも大事なことである。会費収入が安定してから、改めて議論したい。

(3) 韓国中国語教育学会、世界華語文教育学会との交流について

上記理事会報告にもあるように、会長就任挨拶で表明したビジョン「会の内外に開かれた風通しの良い組織であること」を実現するために、国内外の学会、研究組織、団体との交流を積極的に進めたいと思います。

ついでには、韓国と台湾の中国語教育に関する学会と下記の友好交流備忘録を交わしました。今後、両国学会との実質的交流を着実に進めてゆきたいと考えています。

1. 韓国中国語教育学会との友好交流備忘録締結 (2006年10月23日、ソウルにて)
2. 世界華語文教育学会との友好交流備忘録締結 (2006年12月28日、台北にて)

(4) 《日本中国語教育學會會員 來台華語文研習》の再募集について

世界華語文教育学会 (台湾、<http://www.wcla.org.tw/default.htm>) との共催予定であった《日本中国語教育學會會員 來台華語文研習》について、前回会報 43 号及びホームページでお知らせしました。あいにく参加希望者が少なかったため実現に至りませんでした。ご注目ください。

(5) 研究会・講演会・サンプルテストのお知らせ

☆関東地区1月研究会

日時 2007年1月13日(土)午後2時より

場所 東京外国語大学 研究講義棟104教室

発表 (1) 佐藤富士雄(中央大学)

「反復疑問文の使用状況から-V没VO型と有没VO型」

(2) 飯島啓子(東京外国語大学・非)

「“有”構文の二つのタイプについて-日本語との比較を兼ねて」

(3) 小菌瑞恵

「“食”と“喫(吃)”の意味と用法-“食”の意味の変遷を中心に」

☆関西地区2月講演会(後援 現代中国語研究会)

日時 2007年2月3日(土)午後2時より

場所 大阪産業大学 梅田キャンパス(大阪駅前第3ビル19階)

講演 (1) 南开大学 汉语语言文化学院院长 石锋教授

「汉语语音教学的几点思考」

(2) 岡本俊裕(京都外国語大学中国語学科)

小野隆啓(京都外国語大学英語学科)

「中国語・英語同時学習のためのティームティーチングによる授業の展開

—特色GPを獲得して」

※会場へのアクセス地図は学会ホームページをご覧ください。

☆中国語コミュニケーション能力判定Webテストのサンプルテストのご協力お願い

早稲田大学のチュートリアル中国語レベル分け及び効果測定のための中国語WebテストシステムTACCB(Test of Ability for Chinese Communication、砂岡和子・村上公一監修、早稲田大学インターナショナル(株)開発)の新規問題開発にあたり、テスト問題の難易度を測定するためのサンプルテストを実施します。

ご担当クラスで、実力判断や期末試験参考用に、サンプルテスト実施または、呼びかけのご協力をお願いします。詳細は以下URLをご覧ください。

□中国語Webサンプルテスト案内サイト <http://etest.wui.co.jp/tacc-s/>

クラス単位で実施の場合、成績一覧リストをフィードバック致しますので、テスト実施前に下記連絡先までご連絡下さい。実施方法などの詳細をご案内致します。

□お問合せ：早稲田大学インターナショナル株式会社 中国語Webサンプルテスト係
e-mail : tc-support@list.waseda.jp

TEL : 03-5286-8030 時間 9:00~18:00(月~金曜日)

(6) 事務局からのお願い

2006年度会費未納の方は、同封の振込用紙により会費入金をお願い致します。事務運営上、2007年1月末までにご入金くださるようお願い致します。なお、本会報と入れ違いに納入いただいた場合には、再請求の無礼をお許しください。

中国語の教育・研究にかかわる研究会やスピーチコンテストなどの催しがある時は、ぜひとも事務局にご一報ください。学会ホームページ(<http://www.jacle.org/>)において広く通知させていただきます。ご協力お願い致します。